

新訂

藥漢和

處方集

醫學博士
赤松金芳著



新訂

和漢藥

處方集

医学博士
赤松金芳著



医歯薬出版株式会社

<著者略歴>

あかまつ かねよし
赤松 金芳

明治29年3月12日生

大阪道修薬学校(現大阪薬科大学)

大正元年卒 薬剤師試験合格 千

葉医科大学薬物学専攻 帝国学士

院日本科学史編纂嘱託 湘南工業

専門学校教授 昭和薬科大学教授

文部省迷信調査協議会委員 神奈

川県横須賀児童相談所長等歴任

昭和54年4月29日 勲三等瑞宝章

叙勲

現在、京浜女子大学名誉教授 学

校法人京浜大学理事 日本医史学

会名誉会員 日本児童学会名誉会

員 医学博士

新訂 和漢薬一處方集一

定価 5,800 円

昭和55年3月20日 第1版第1刷発行

著者 赤松 金芳

発行者 今田 喬士

印刷者 永井 佐波太郎

発行所 医歯薬出版株式会社

〒113 東京都文京区本駒込 1-7-10 振替東京 9-13816

東京本郷局私書箱 第8号 電話 東京 (03) 944-3131 (大代)

乱丁、落丁の際はお取り替えいたします。

印刷・三報社/製本・明光社

© Keneyoshi Akamatsu, 1980.

<検印廃止>

F144/111 (日 5-4/320-C)

(新訂)和漢薬「処方集」

B000220

緒 言

さきに、著者は、昭和45年4月、医歯薬出版株式会社より「新訂和漢薬」を出版したが、その際、薬物編に処方編を付する予定であったが、あまりに頁数が多くなったので、一応薬物編のみをまとめて「新訂和漢薬」として出版し、その書中に「処方」の項を設けて、処方名のみを記載しておいた。ところが、その処方の内容につき、しばしば問い合わせがあるので、今回、さきに予定した処方編を改稿訂正して、「新訂和漢薬一処方集」として刊行することとなった。

元来、漢方医学では、古来、行われた機能病理学的の考えにより、患者を望診、問診、聞診、切診（脈診、腹診）、およびその体質との総合的診断による一定の病態生理状態、すなわち、いわゆる“証”（虚、実、表、裏、寒、熱など）にしたがって、それに適応する方剤を与えるところの“随証治療”という方法をとっている。ところが現代の洋方医学では、病理解剖学的や細菌学的、その他諸種の試験、検査の成績によって病名診断を行い、それに薬理学的作用の確認された薬物を処方応用し、あるいはその他の処置を行うものである。したがって、その方剤を取り扱ううえにおいて、直ちに彼此を比較することは適当でないかもしれないが、疾病治療という点においては、それぞれの立場において、これを取捨選択して応用することによって、良好の治療効果をあげることができれば、まことに幸いである。ことに、薬害とか副作用とかが問題となっている時、漢方処方を見直すことも、また必要なことではなかろうか。この意味においても、本書を編集するに至った所以でもある。なお、個々の薬物については、拙著「新訂和漢薬」を参照されたい。

本書編集に際し、幾多の貴重なる典籍を貸与せられ、且つ常に指導を賜った故富士川游先生に心から深謝申し上げる。

そして、本書出版につき、ご協力いただいた方々に厚く謝意を表する次第である。

昭和55年3月

著 者

凡 例

1. 本書は、現代医学による内科、外科、皮膚科、耳鼻咽喉科、歯科、眼科、産婦人科、小児科の科別にしたがって、「漢方病症名」をあげ、その異名、別名、類名を付記した。
2. 次に、それに対応する現代医学による病症名を記載し、そのラテン名 (L)、英名 (E)、ドイツ名 (D) を付記し、東西医学の交流の一端とした。これには「漢洋医通」「漢洋病名一覧」「漢洋病名対照録」などを参考とするほか、漢医龍野一雄氏の助言によるものもある。
3. 処方については、漢唐時代より明清に至る各時代の代表的と思われるもの、現在漢医が繁用しているもの、または、現代医学上よりみて効果があると思われるものなどを抜粋して、集録した。ただし、漢方においては、一つの方剤をもって、多くの病症に応用されるものが多い。それで、その中で最も適当と思われる病症の下に排列し、それに他の病症にも効果のあるものは、それを原方の本文によって付記するとともに、その出典を明らかにした。したがってその応用に当たっては、同系列の他の病症の項をも参照されたい。
4. 用量については、原方には、古くは斤、両、分、銖や、あるいは銭、升、合などの単位をもって記載され、しかも、同じ“両”であっても時代によって異なることもあるので、本書では、標準的割合をもって記載したが、現在繁用されている方剤 (* 印を付す) については、グラム量をもって表示した。しかし、漢方薬物でも、烏頭、附子、輕粉、砒石などの毒性薬物を配合したものもあるから、それらの取り扱いについては注意を要することは、いうまでもないことである。
5. 用法について、

(i) 漢方方剤には、湯剤すなわち煎剤が主となっている。洋方でも煎剤があるが、日本薬局方によると、生薬 50 g に精製水 950 ml を加えて 30 分間加熱し、温時布ごしして、その浸出液に精製水を加えて全量を 1,000 ml とすることが規定されている。しかし、現在の漢方では、方剤 1 貼 (1 日量——方剤によって異なるが約 20 g) を水 500~550 ml で煎じて、約半量としたものを布または細かい網でろ過し、1 日 3 回食間に分服するを常とする。また、この一番煎じ (頭煎) のほかに、二番煎じ (次煎) を用いる場合もある。それは生薬成分の中で水に可溶性のものは一番煎じで浸出するが、水に難溶性の成分は二番煎じによって浸出されるというわけである。

あるいは、揮発性成分を含むものについては、方剤を布製の袋に入れ沸湯に浸漬して、振出する泡剤 (浸剤) も用いられる。

なお、方剤に“飲”と名付けられるものがあるが、これは、多紀元堅の「薬治通議」によると“湯”は常服するもので、“飲”は頓服するものとあるが、現在では、その区別は少ないようである。そのほか、方剤に“散”または“丸”とあっても、煎剤として用いる場合が

ある。

(四) 方剂名に“散”のつくものは、もちろん散剤で、生薬を粉末として混合したもので、1回 1~2g を1日3回服用するのが常である（煎剤として用いることもある）。

(五) “丸”は丸剤で、粉末生薬を蜜または糯米などの賦形剤、結合剤を加えて製丸したもので、現在では 0.1g を普通とするが、漢方方剂では梧桐子大とか、小豆大とか書かれていて、大丸子では 4~5g に至るものもある。このような大丸子は、沸湯に崩壊して飲用することになる。

なお“円”というのは“丸”と同じことで、中国で宋の欽宗の諱の“完”の音が“丸”と似ているので、南宋では“丸”を“円”といったということである。

また“丹”は中国の方士が辰砂などを用いた鍊薬の称呼によるもので、丸剤型のほか、現在の錠剤型にしたものなどがある。

(六) 現在市販されているものは、方剂を水製エキスとして、それに賦形剤を加えて錠剤としたもので、簡単に服用することができるが、ただ、病症の変化によって、これを加減することができないわけである。

6. 本書の方剂名の前に付した○印は内用薬、●印は外用薬を示すものである。

目次

緒言

凡例

I. 內科	3
1. 傳染病	3
痘瘡	3
痢疾	4
傷寒	6
瘧疾	7
麻疹	4
感冒	6
馬喉痺	7
癩病	9
2. 呼吸器病	11
喘息	11
欬血	14
勞瘵	16
肺癰	18
咳嗽	12
胸脇痛	15
肺痿	17
3. 循環器病	20
心痛	20
4. 消化器病	22
膈噎	22
食傷	24
反胃	26
嘔吐	28
腹痛	29
霍亂	31
便秘	33
痔	35
腸癰	37
積聚	39
黃疸	42
不思食	23
留飲	25
吞酸嘈雜	27
吐血	28
泄瀉	30
疝	32
便血	34
脫肛	36
蟲病	38
脹滿	40
5. 泌尿生殖器病	43
淋	43
尿血	45
小便不通	44
遺尿	46

小便利多	47	陰萎	47
失精	48	陰癰	49
消渴	50	水腫	51
楊梅瘡	52	下疳	53
6. 神経系病	55		
頭痛	55	眩暈	56
不眠	57	嗜眠	58
中風	58	破傷風	60
癲癇	61	驚癇	62
癲狂	63	驚悸	64
健忘	65	氣鬱	65
奔豚	66	吃逆	67
身体痛	67	腰痛	69
麻痺	70	痿弱	71
痛風	72	脚氣	73
7. 体質病	76		
虚弱	76	自汗, 盗汗	78
黄胖	79	中暑	79
8. 中毒症	81		
中毒	81	傷酒	81
II. 外科	85		
1. 外傷	85		
金創	85	火傷	86
打撲, 骨折	86		
2. 炎症及びその続発症	88		
癰疽	88	疔瘡	89
瘰癧	90	附骨疽	90
瘰癧	91		
III. 皮膚科	95		
諸瘡	95	癩風	96
風瘙	96	疥瘡	97
禿瘡	98	丹毒	98

面 皰.....	99	野 黯.....	99
汗 血.....	100	肌 衄.....	100
胡 臭.....	100	癭 瘤.....	101

IV. 耳鼻咽喉科 105

1. 耳 病 105

耳 聾.....	105	耳 鳴.....	106
聾 耳.....	106	耳 痛.....	107

2. 鼻 病 108

鼻 塞.....	108	鼻中息肉.....	108
鼓 鼻.....	109	鼻 血.....	109

3. 咽 喉 病 111

失 音.....	111	喉 痺.....	112
咽 痛.....	112	口 瘡.....	113
口 臭.....	114	舌 腫.....	114
舌 疽.....	115	舌 麻.....	115
重 舌.....	115	舌 衄.....	116

V. 齒 科 119

齒 痛.....	119	齒根腫.....	119
齒 衄.....	120	牙 疳.....	120

VI. 眼 科 125

清 盲.....	125	雀 目.....	125
目赤痛.....	126	目 翳.....	127

VII. 產婦人科 131

1. 婦 人 病 131

陰 腫.....	131	陰 瘡.....	131
陰 脫.....	132	帶 下.....	132
崩中漏下.....	133	月經不順.....	134
經 閉.....	135		

2. 妊娠-娩產 137

惡 阻.....	137	產 難.....	138
----------	-----	----------	-----

胎 死.....	139	胞衣不下.....	139
產後腹痛.....	140	惡露不尽.....	140
墮 胎.....	141	無 子.....	141
乳 癰.....	142	乳汁不通.....	143

VIII. 小 兒 科 147

小兒初生雜病.....	147	小兒夜啼.....	147
疳 疾.....	148		

採拾方書目錄, 參考文獻..... 153

索 引 158

新訂

藥漢和

處方集

医学博士
赤松金芳著



医歯薬出版株式会社

<著者略歴>

あかまつ かねよし
赤松 金芳

明治29年3月12日生

大阪道修薬学校(現大阪薬科大学)

大正元年卒 薬剤師試験合格 千

葉医科大学薬物学専攻 帝国学士

院日本科学史編纂嘱託 湘南工業

専門学校教授 昭和薬科大学教授

文部省迷信調査協議会委員 神奈

川県横須賀児童相談所長等歴任

昭和54年4月29日 勲三等瑞宝章

叙勲

現在、京浜女子大学名誉教授 学

校法人京浜大学理事 日本医史学

会名誉会員 日本児童学会名誉会

員 医学博士

新訂 和漢薬一處方集一

定価 5,800 円

昭和55年3月20日 第1版第1刷発行

著者 赤松 金芳

発行者 今田 喬士

印刷者 永井 佐波太郎

発行所 医歯薬出版株式会社

〒113 東京都文京区本駒込 1-7-10 振替東京 9-13816

東京本郷局私書箱 第8号 電話 東京 (03) 944-3131 (大代)

乱丁、落丁の際はお取り替えいたします。

印刷・三報社/製本・明光社

© Keneyoshi Akamatsu, 1980.

<検印廃止>

F144/111 (日 5-4/320-C)

(新訂)和漢薬「処方集」

B000220

I. 内 科 *Medicina interna*

1. 伝染病 *Infectious disease(E)*

痘 瘡 (皰瘡, 豌豆瘡, 痘瘡, 痘疹)

[対応] 痘瘡 *Variola (L), Smallpox (E), Pocken (D)*

[処方]

○木香湯 瘡出煩疼 (千金方)

青木香 2.0, 丁香 1.0, 薰陸香 1.0, 白礬 1.0, 麝香 0.2, 犀角 1.0

○水解散 生疱瘡疼痛解肌出汗 (錄驗方)

麻黃 1.0, 黃芩 0.3, 芍藥 0.2, 桂心 0.2

○安斑散 調理瘡疹 (張渙)

升麻 1.0, 赤茯苓 1.0, 羌活 1.0, 黃耆 1.0, 人參 0.5, 枳殼 0.5, 桔梗 0.5, 甘草, 薄荷

○化毒湯 治小兒痘瘡已出未出 (活人書)

紫草 0.5, 升麻 0.5, 甘草 0.5, 糯米

○快斑散 治痘出不快 (医学入門)

紫草 0.5, 蟬退 0.5, 人參 0.5, 白芍 0.5, 木通 0.2, 甘草 0.1

○神功散 治痘出毒氣甚盛 (萬病回春)

紫草, 黃耆, 人參, 白芍, 生地黃, 紅花, 牛蒡 (各等分), 前胡, 甘草 (各減半)

○通明散 治痘後余毒 (壽世保元)

蟬退, 當歸, 川芎, 生地黃, 防風, 乾葛, 芍藥, 天花粉 (各等分), 穀精草 (倍)

○參歸鹿茸湯 痘色淡白, 疱不尖門根紅暈 (活幼心法)

鹿茸 3.0, 黃耆 1.5, 當歸 1.5, 人參 1.7, 甘草 0.6, 生姜, 龍眼

○內解散 痘色枯淡, 不起無漿 (痘疹全書)

人參, 黃耆, 甘草, 白芍, 川芎, 當歸, 穿山甲, 木香, 金銀花, 皂角刺, 山查, 乾姜

麻 疹 (赤瘡, 疹子, 麻子, 麸瘡)

〔対応〕 麻疹 Morbilli (L), Measles; Rubeola (E), Masern (D)

〔処方〕

○升麻湯 療天行熱病 (集驗方)

升麻 2.0, 射干 2.0, 羚羊角 3.0, 芍薬 3.0, 通草 4.0, 生蘆根

○升麻葛根湯^(*) 時氣瘟疫, 頭痛發熱肢體煩疹瘡疹 (和劑局方)

葛根 5.0, 升麻 1.0, 白芍 3.0, 甘草 1.5, 生姜 1.0

○蘇葛湯 初熱未見点發表 (濟生全書)

紫蘇 2.0, 葛根 2.0, 甘草 2.0, 白芍 1.5, 陳皮 0.5, 砂仁 0.5, 生姜

○犀角解毒湯 治麻疹已出 (壽世保元)

犀角 1.0, 牡丹皮 1.0, 赤芍薬 1.0, 生地黄 0.5, 黃連, 黃芩, 黃柏, 梔子

○二仙湯^(*) 麻疹 (壽世保元)

黃芩 3.0, 芍薬 3.0

痢 疾 (腸泄, 下痢, 赤痢, 赤白痢, 膿血痢, 泄痢, 瀉痢)

〔対応〕 赤痢 Dysentaria (L), Dysentery (E), Dysenterie (D) (大腸炎 Colitis (L,E) 又は腸炎 Enteritis (L,E,D) を混ず)

〔処方〕

○黃芩湯^(*) 太陽与少陽合病, 白下利者 (傷寒論)

黃芩 3.0, 甘草 2.0, 芍薬 2.0, 大棗 3.0

○葛根黃連黃芩湯^(*) 太陽病, 利逐不止, 脈促, 喘而汗出者 (傷寒論)

葛根 6.0, 甘草 2.0, 黃芩 3.0, 黃連 3.0

○烏梅丸^(*) 主久利 (傷寒論)

烏梅 3.0, 細辛 3.0, 乾姜 5.0, 黃連 7.0, 當歸 2.0, 附子 3.0, 蜀椒 2.0, 桂枝 3.0, 人參 3.0, 黃柏 3.0

○白頭翁湯 熱利下重 (傷寒論)

白頭翁 2.0, 黃連 3.0, 黃柏 3.0, 秦皮 3.0

○桃花湯 下利便膿血 (傷寒論)

赤石脂 6.0, 乾姜 1.5, 粳米 8.0

○溫脾湯 治下久赤白連年不止 (千金方)

大黃 4.0, 人參 2.0, 甘草 2.0, 乾姜 2.0, 附子

○大桃花湯 治冷白滯痢, 腹痛 (千金方)

赤石脂 3.0, 乾姜 3.0, 当帰 3.0, 竜骨 3.0, 牡蠣 3.0, 附子 2.0, 白朮 2.0, 人参 1.5, 甘草 1.0, 芍薬 1.0

○駐車円 治大冷洞痢, 腸滑下赤白(千金方)

黄連 6.0, 乾姜 2.0, 当帰 3.0, 阿膠 3.0

○黄連湯 治赤白痢(千金方)

黄連 3.0, 黄柏 3.0, 乾姜 3.0, 石榴皮 3.0, 阿膠 3.0, 当帰 1.0, 甘草 1.0

○黄連散 治下痢(令李方)

黄柏 2.0, 甘草 2.0

○黄連丸 治膿血痢(范汪方)

黄連 3.0, 黄芩 3.0, 竜骨 4.0, 黄柏 3.0, 升麻 3.0

○断痢湯(*) 心下水飲下痢(外台秘要方)

半夏 5.0, 茯苓 4.0, 大棗 3.0, 人参 2.0, 乾生姜 2.0, 黄連 2.0, 甘草 1.5, 附子 0.5

○黄蘗湯 治血痢(萬安方)

黄柏 3.0, 黄連 3.0, 木香 1.0

○烏梅丸 治膿血痢(聖濟總錄)

烏梅肉 1.0, 黄連 1.0, 附子 0.5, 乾姜 3.0

○参連湯 治下痢(朱丹溪)

人参 5.0, 黄連 3.0

○真人養臟湯 腸胃痞弱, 下痢赤白(和劑局方)

罌粟殼 6.0, 白芍薬 4.0, 木香 4.0, 訶子皮 4.0, 肉桂 1.0, 甘草 1.0, 当帰 2.0, 人参 2.0, 白朮 2.0, 肉豆蔻 2.0

○芍薬湯 下血調氣(保命集)

芍薬 4.0, 当帰 2.0, 黄連 2.0, 黄芩 2.0, 大黃 1.0, 檳榔 1.0, 木香 1.0, 甘草 1.0, 官桂 1.0

○玄白散 治痢疾初起裏急後重腹痛(萬病回春)

大黃 2.0, 生地黄 2.0, 赤芍 2.0, 当帰尾 2.0, 檳榔 2.0, 牽牛 2.0, 枳殼 2.0, 莪朮 2.0, 黄連 2.0

○逐瘀湯 治赤痢血痢(壽世保元)

大黃 1.5, 桃仁 1.5, 阿膠 1.0, 枳殼 1.0, 茯苓 1.0, 白芷 1.0, 川芍 1.0, 赤芍 1.0, 生地黄 1.0, 莪朮 1.0, 木通 1.0, 五靈脂 1.0, 甘草 1.0

○合璧飲 治痢病赤白(叢桂亭藏方)

芍薬 4.0, 黄芩 3.0, 枳實 2.0, 大黃 2.0, 厚朴 2.0, 甘草 1.0, 大棗

感冒 (天行中風, 風邪, 寒邪, 寒冒)

[対応] 流行性感冒 Influenza (L,E,D) (感冒 Common cold (E), Erkältung (D), 鼻炎 Rhinitis (L,E,D) を混ず)

[処方]

○葛根湯(*) 太陽病, 項背強兀兀無汗惡風 (傷寒論)

葛根 4.0, 麻黄 3.0, 桂 2.0, 芍薬 2.0, 甘草 2.0, 生姜 3.0, 大棗 3.0

○大青龍湯(*) 太陽中風發熱惡寒身疼痛不汗出而煩躁 (傷寒論)

麻黄 6.0, 桂枝 2.0, 甘草 2.0, 生姜 3.0, 杏仁 3.5, 大棗 3.0, 石膏 10.0

○麻黄湯(*) 太陽病, 頭痛發熱身疼腰痛骨節疼痛惡風無汗而喘 (傷寒論)

麻黄 5.0, 桂枝 3.5, 甘草 3.0, 杏仁 4.5

○麻黄附子細辛湯(*) 少陰病, 發熱脈沈 (傷寒論)

麻黄 4.5, 細辛 2.5, 附子 1.0

○桂枝加葛根湯(*) 太陽病, 項背強兀兀反汗出惡風 (傷寒論)

葛根 6.0, 芍薬 4.5, 甘草 2.5, 生姜 3.0, 大棗 3.5, 桂枝 4.0

○香蘇飲(*) 傷寒瘟疫頭疼寒熱往来 (和剂局方)

紫蘇 2.0, 香附 3.0, 陳皮 3.0, 甘草 1.0, 生姜 1.0

○五積散(*) 調中順氣除風冷化痰飲, 外感風寒, 內傷心腹痞悶頭目昏痛寒熱往来 (和剂局方)

當歸 1.0, 川芎 1.0, 白芍 1.0, 蒼朮 1.0, 厚朴 1.0, 陳皮 1.0, 茯苓 1.0, 半夏 1.0, 白芷 1.0, 枳殼 1.0, 桔梗 1.0, 乾姜 0.5, 官桂 0.5, 麻黄 1.0, 甘草 1.0, 生姜, 大棗

○神授大乙散 四時感冒, 頭疼身痛, 發熱惡寒 (濟世全書)

紫蘇, 陳皮, 香附, 川芎, 白芍, 羌活, 升麻, 赤芍, 乾葛, 枳殼, 甘草

○參蘇飲(*) 感冒發熱頭疼痰飲 (萬病回春)

陳皮 2.0, 枳殼 1.0, 桔梗 2.0, 甘草 1.0, 木香 1.0, 半夏 3.0, 紫蘇 1.0, 乾葛 2.0, 前胡 2.0, 人參 1.0, 茯苓 3.0, 生姜 1.5, 大棗 1.5

○和解湯 外感寒邪, 身體疼痛, 壯熱惡寒 (十便良方)

桂枝 0.3, 芍薬 0.3, 厚朴 1.5, 乾姜 1.5, 白朮 1.5, 人參 1.5, 茯苓 1.5

○紫蘇解肌湯 天行感冒 (自準亭方)

紫蘇, 葛根, 川芎, 乾姜, 杏仁, 甘草

傷 寒 (溫疫, 時行, 時疫)

[対応] チフス Typhus (L,E,D), 其他の流行性熱性病 Febris (L), Fever (E), Feber (D)

[処方]

○桂枝湯(*) 太陽中風, 陽浮陰弱, 惡寒惡風發熱 (傷寒論)

桂枝 3.0, 芍藥 3.0, 甘草 2.0, 生姜 3.0, 大棗 3.0

○大柴胡湯(*) 傷寒十余日, 熱結在裏, 往來寒熱 (傷寒論)

柴胡 6.0, 黃芩 3.0, 芍藥 3.0, 半夏 4.0, 生姜 5.0, 枳實 2.0, 大棗 3.0, 大黃 2.0

○小柴胡湯(*) (三禁湯) 傷寒五六日, 中風往來寒熱 (傷寒論)

柴胡 6.0, 黃芩 3.0, 人參 3.0, 甘草 3.0, 半夏 5.0, 生姜 3.0, 大棗 3.0

○白虎湯(*) 傷寒脈浮滑, 表有熱裏有寒 (傷寒論)

知母 6.0, 石膏 15.0, 甘草 1.0, 粳米 8.0

○七物升麻湯 天行毒病, 酷熱下痢 (深師方)

升麻 0.5, 當歸 0.5, 黃連 0.5, 甘草 0.5, 芍藥 0.5, 桂心 0.5, 黃柏 0.5

○人參敗毒散 傷寒時氣, 頭痛項強, 壯熱惡寒 (和劑局方)

人參 1.0, 茯苓 1.0, 甘草 1.0, 前胡 1.0, 川芎 1.0, 羌活 1.0, 獨活 1.0, 桔梗 1.0, 柴胡 1.0, 枳殼 1.0, 生姜 0.5, 薄荷 0.5

○竹筴溫胆湯(*) 傷寒熱不退, 夢寐不寧, 心驚恍惚, 煩躁多疾不眠 (萬病回春)

柴胡 5.0, 香附 2.0, 人參 2.0, 黃連 2.0, 甘草 1.0, 桔梗 3.0, 陳皮 3.0, 半夏 3.0, 竹筴 3.0, 茯苓 3.0, 枳實 1.0, 麥門 3.0, 生姜 1.0

○黃連解毒湯(*) 大熱不止, 煩躁乾嘔口渴喘滿 (傷寒活人書)

黃連 2.0, 黃芩 3.0, 黃柏 2.0, 梔子 2.0

○達原飲 溫疫初起增寒發熱 (溫疫論)

檳榔 2.0, 厚朴 1.0, 知母 1.0, 芍藥 1.0, 黃芩 1.0, 草薢仁 0.5, 甘草 0.5

馬喉痺 (長脾風, 纏喉風, 爛喉丹痧, 急喉痺)

[対応] シフテリア Diphtheria (L,E), Diphtheric (D) (喉頭炎 Laryngitis (L,E), Kehlkopfe-
ntzündung (D) を混ず)

[処方]

○解毒雄黃円 治纏喉風, 急喉痺 (本事方)

雄黃 0.1, 麝香 0.1, 巴豆

●無価散 馬脾風 (宝鑑)

辰砂 1.0, 輕粉 1.0, 甘遂 1.0

瘧疾 (瘧瘧, 溫瘧, 瘧疾)

[対応] マラリア Malaria (L,E,D)